

## 平沢復興大臣の岩手県ぶら下がり記者会見録

(令和2年9月23日(水) 15:40～15:50)

於) 岩手県庁3階第1応接室)

### 1. 発言要旨

16日の新内閣発足に伴いまして、復興大臣を拝命しました平沢勝栄でございます。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

私は、福島の出身でございます、同じ東北として3月11日の大変な被害も人ごとではないので、自分のことのように大変心配しているところでございます。今日は復興大臣に就任した御挨拶に達増知事にお会いしました。達増知事は、私が当選したときの同期でございます、そのときからもう大変お元気で御活躍されておられまして、今日久し振りにお会いしましたけれども、大変にうれしく思っている次第でございます。

岩手県は3・11の大災害で大きな被害を受けられたわけでございますけれども、その後、達増知事を先頭にした県民の皆さんの大変な御努力で、復興が着々と進み、ほぼ総仕上げの状況のところまで来ていると言っても過言ではないかなと思ひます。

しかし、今、知事さんとも話をしたんですけれども、まだまだやることはあるわけございまして、当然のことながら、被災者の心のケア、そして生業(なりわい)の再生など、こういったことにもしっかり取り組んでいかなければならないなど。ハードは終わったと言っても、まだやることがあるんじゃないかと。そのこともしっかり私たちは取り組んでいきたいと思ひます。

私は今、知事さんにも申し上げたんですけれども、復興というのは、元の状態に戻すのが復興ではありません。元の状態に戻すんじゃなくて、元よりはるかにすばらしい住みやすい安全な街にしていくこと、これが本当の復興でございます、私たちが目指すのは、さらにすばらしい、元よりさらにすばらしい街にしていく、これが私たちの求める復興でございます、そういった街づくりをお互いに協力してつくっていきましょうと、こういうことで話をさせていただいたところでございます。

知事さんからは、新型コロナウイルス感染症によりまして、対面による被災者支援に大変な影響が出ているというようなお話、それから事業者等にも大変な問題が出ているというお話、こういったことがありました。こういったことも踏まえまして、これは復興庁の問題だと、あるいは問題でないとか、そういったことじゃなくて、政府全体としてこういった問題はどうすべきかということ、帰りまして、しっかり関係方面に伝えていきたいと思ひます。

いずれにしましても、今日、総理にお会いしまして、これから岩手に行ってきますよということを申し上げましたら、くれぐれも知事さんによろしくということとあわせまして、県民の皆さんの心に寄り添って、しっかりこれからこの復興の支援に取り組んでほしいという御指示をいただきました。そういった総理の御指示に応えて、しっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、県民の皆さんの御支援、御協力を心からお願い申し上げたいと思っております。

私のほうからは、以上でございます。あとは、御質問があればお受けしたいと思っております。

## 2. 質疑応答

(問) 2点お尋ねします。

完全に立ち直る、復興について完全に立ち直るという表現がありましたけれども、被災自治体では人口減少など、水産業の問題とかと闘っているところです。大臣がお考えの完全に立ち直るというのは、どういうところをイメージしたらいんでしょうか。

(答) 例えば、被災された方が戻ってこられると。これではやっぱり戻ってこられない方もおられるので、人口は増えないんですよ。ですから、街としてはさびれてしまうんですよ。ですから、そういったことも大事ですけれども、同時に新しい方が、あの地にぜひ住んでみたいと、そういう街をつくっていく。あるいはあの地に産業がある、ですから、その産業のもとにぜひ働いてみたいということで移ってくれれば。そういった形で、もうともかく人口が増えなければならぬので、そういった街づくりをぜひやっていかなければいけないなと思っております。

(問) ありがとうございます。内閣の基本方針に含まれなかった点についても、改めて伺います。

被災地では少し残念だなと思う方も多いんですけれども、どのように改めて思われますか。

(答) 私自身は、特にあの問題で心配される必要性は全くないと思っております。ともかく、今日も総理から、この復興の問題は菅内閣の最大の重要課題の一つだということを言われたわけでございまして、それを受けて私は今日こちらのほうに来させていただいたわけでございまして。ですから、もちろん言葉がそこから消えたということで、いろいろと心配される向きもあると思っておりますけれども、大事なことは、言葉以上に中身、実態、そして実際の活動ですから、そして具体的に何をやるかですから、もし何もしないならともかく、私は今までよりはるかに菅内閣は張り切っていると思っておりますよ。それで、私も、今日は大変な発破をかけられました。

ですから、その意味で言えば、私は確かに、そこにはないかもしれませんが、菅内閣は全閣僚が復興大臣と思って頑張れということも言っていますし、それから一人一人の皆さんが、東北の復興なくして日本の再生はないと、この気持ちをしっかりと持ってくれということも言われているわけでございまして。ですから、そういったことをトータルで考えますと、言葉の上で、文章の上ではそれはあるかもしれませんが、今の菅内閣は、この復興を軽んじているなんていうことは全くないし、私は今までよりはるかに力を入れておられると思いますし、そのことはこれから皆さん方、実際に私たちの活動を見ておわかりいただけるんじゃないかなと思います。

(問) すみません、どうして言葉として抜けてしまったのでしょうか。

(答) それは私が作ったわけじゃないからわかりませんが。今日、総理は、とにかくこれは最重要課題の一つという言葉で盛んに言っておられましたし、それは御心配される必要性は全くないし、私自身はこれはもう今まで以上に力を入れてこれに取り組むというのが、菅内閣の姿勢じゃないかなと思っています。

(以 上)